

タイ王国チェンマイ県の医療関係者が香川県を訪問

医師が不在なうえに交通の不便なタイ王国の山間へき地の妊産婦死亡率および胎児・新生児の死亡率を改善するために、JICAの技術協力事業として、瀬戸内圏研究センターの原量宏特任教授を中心に、香川大学や香川県、県内の企業メロディ・インターナショナル（香川大学発ベンチャー認定）、NPO法人 eHCIKがプロジェクトを構成して取り組んでいる。

これまで、香川大学と交流協定を結び教育・研究を推進しているタイ王国のチェンマイ大学と共同で、チェンマイ県の3ヶ所のへき地医療施設にモバイル胎児心拍計を導入し、効果を確認してきた。

このたび、その成果をもとに、より使いやすい小型のモバイル胎児心拍計を開発し、チェンマイ県全体のへき地医療施設に適用拡大することになった。そこで、チェンマイ県の医療関係者12名（県保健部長、病院長、医師、看護師など）が香川の状況を研修するために、香川県庁、香川大学医学部附属病院、さぬき市民病院、JICA四国などを11月25日～29日に訪れる。

香川大学訪問の様子（令和元年11月25日）

